

光と空気と水を生かす
ダイダン



- 定期代 取り過ぎた
 - GW日当たり良好
 - お手軽バーベキュー
 - 北京五輪まで100日
- ◀ リンリン しばらく休みま

日本の
知力

「ホワット・イズ・フィロソフィー? イッツ・ア・パッション」
 秋田空港近くにある国際教養大学(2004年開学)の講義室。米国人のドン・ニルソン特任教授が日本人学生7人を前に熱っぽく語る。英語の哲学授業。「メタフィジクス(形而上学)」「エシクス(倫理学)」といった言葉が飛び交う。学生は教授の話を理解しようと食らいつつ聞いている。

ニルソン教授は、「言葉の壁は乗り越えられる。レベルは下げないし、必要もない」と言う。すべての授

第3部 大学で考える 7

授業はすべて英語



国際教養大の図書館は、蔵書の8割が洋書で24時間利用できる(10日、秋田市で)＝菅野靖撮影

業が英語。最初は四苦八苦でも次第に慣れる。英語漬けにすることで、異文化体験にもなり、やがて自身身や日本そのものを客観視する力も養われるという。「英語を第2公用語に」

業が英語。最初は四苦八苦とする小淵首相(当時)の私的諮問機関「21世紀日本の構想」懇談会(報告書)が出てから8年余り。「英語のみの授業」を掲げる大学の早稲田大学国際教養学部

(東京都)や00年開学の立命館アジア太平洋大学(大分県)がその例。語学以外の授業に英語を使う大学は、03年度に196校だったのが、05年度には233校になった。全大学のほぼ3分の1だ。

背景にあるのは、インターネットの発達と経済のグローバル化だ。英国の調査によれば、ネット上で使われる言語は英語が約35%で1位(日本語は8%で4位)。情報量、発信力とも他を圧している。

国際基督教大学大学院の富山真知子教授(55)は、主に書物を通して海外情報を吸収していた時代とは、質の異なる英語教育が必要と

「21世紀日本の構想」懇談会 1999年3月に発足。翌年1月の最終報告書では、社会人になるまでに実用英語を身につけるほか、義務教育週3日制の導入、選挙権の18歳への引き下げなども盛り込んだ。

指摘する。「外国の知識を本から得るには、文法や読解が中心の教育が効率的だった。でも、現代は、情報を瞬間的に吟味する力、自分を表現する力にまで引き上げなければならぬ」と語る。経済や学問の最前線では、翻訳を待つてはいられない。

だが、英語を通じて「国際社会でも通用する人材」を育てる試みに踏み出したのは、まだほんの一握り。国際教養大学では、教員の6割が外国人で、質の高い教員確保も重要だという。

「指導能力を持つ教員が足りない」との切実な声も聞かれる。上智大学外国語学部長の吉田研作教授(59)は「日本は母国語だけで生活できるため、英語に触れる機会が少ない」と言う。世界屈指の翻訳大国で、米映画は吹き替えがあるという利点は、変化を遅らせている。

ただ、日本同様に母国語文化が豊かな独、仏でも危機感は高まっている。隣の韓国の李明博大統領は、「英語教育」を重点目標に掲げ、「英語が出来る国の方が、いい暮らしをしている」とまで語っている。

英語教育が語学の専門家を生みだしていた時代は、過去のもの。今では、大学の知力を底上げする役割を担っている。

(2面にインタビュー)

日本の知力

<1面続き>

外国語を学ぶことは、心の中にもう一つの宇宙をつくり出すことだ。東西冷戦が終わり、この約20年間で、グローバル化という歴史的变化が起きた。そうした時代の知力は、文字通りグローバルな知力でなければならぬだろう。

生きた英語に原点回帰

語ができないというコンプレックスから日本人を解放する必要がある。

そうしなければ、日本の知力は、相対的に下がるばかりだ。私自身は、英語に加え、できればアジア系言語を第2外国語とする「3

識者に聞く

国際教養大学学長

なかじま みねお 氏
中嶋 嶺雄

言語主義が理想だと思つて、

日本の英語教育は、1873年(明治6年)設立の東京外国語学校(現・東京外大)が基礎を築いた。当時、英語科はかなりの人気で新渡戸稲造や岡倉天心、内村鑑三らが学んだ。そし



1936年長野県生まれ。60年東京外大卒。社会学博士。95年東京外大大学長。2004年国際教養大理事長・学長。著書に「北京烈烈」「国際関係論」など多数。

て、すばらしい英語力を身につけた。新渡戸は「武士道」、岡倉は「茶の本」、内村は「代表的日本人」と、いずれも英語で日本の思想を語った。

彼らはいわゆる「お雇い外国人」から、英語で英語を学んだ。だが、英語教育はその後、文法などが重視される「英語学」となり、戦後教育へと続いた。「生きた英語」を英語で学ぶという意味では、現在は原点回帰の兆しがあると言えるだろう。

新渡戸らは優れた教養人でもあった。大学ではこれまで専門性を重視する一方、知の土台となる教養を軽視してきた。そのため知に対する新たな挑戦もなくなっていた。本当の知力は、

狭い専門知識ではなく、より幅広い教養にある。大学では教養と外国語の表現力を身につけ、大学院では専門知識を学ぶ時代だ。

外国語を学ぶことは、日本語を大切にすることと矛盾しない。欧州では今、外国語を学ぶことで自らの母国語がより相対化され、磨きがかかるという考え方が広がっている。外国語習得が知的生活を充実させるという認識だ。

大学の役割は大きい。確かにインターネットは普及したが、遠隔授業だけで事足りるはずがない。知は、相対する人の直接の反応があって初めて磨かれる。知的共同体としての大学の存在意義は、決してなくならない。(聞き手・寺口亮一)

排出量取引市場 東証「来年中に」

東京証券取引所は28日、温室効果ガスの排出量取引市場を、2009年中に創設する計画を発表した。

排出量取引の方法は、先進国に温室効果ガスの削減義務を課した「京都議定書」に基づく仕組みを軸に検討

法人事業税を 自治体

総務省は28日、住民基本台帳に基

へその緒の血液(さい帯血)を幹派に注射する手法

方

マウスに注射、効果

病氣。そのため、A、Bの蓄積を抑える能力補給が世帯